

# 七月例会御案内

(平成二十六年・通算第三三五回)

## 時代を刷新する会

http://www.jidassassin.jp

### ○御案内

七月十五日(火) 正午～午後二時半

衆議院第一議員会館 地下一階・第三会議室

議題 人口減少の実態とその対策!

講師 松谷明彦先生(政策研究大学院大学名誉教授、元大蔵省主計官・大臣官房審議官等)

さて、日本は、世界でも例がないような少子・高齢社会に突入し、経済活力が大きく失われ、行くのではないかと、年金制度の先行きが心配だ等々、日本の将来にとって深刻な事態であることは、認識されておりませう。

政府もいろいろと対策を検討しているようですが、現実には、夫婦共稼ぎ時代において、若い女性が、出産・育児をする負担が大きいか、積極的に結婚しないなどの事情もあり、この課題には、いろいろむずかしい問題があるようです。

そこで今回は、人口減少問題・高齢社会問題の権威でいらっしゃる松谷明彦先生に、その実情分析とともに、松谷先生が、どのような対策・政策をお考えになっているか、御解説をいただき、当団体としても、勉強・検討したい、と存じます。

これも、重要課題、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

◎ 当日会費 四千円(昼食・講師料ほか) 七月十一日(金)までに、出欠の御連絡賜りたく)

当日連絡先 080-8836-6203・重田

080-9292-2620・高津

### □ 御報告

去る六月十日の月例会は、本年二月末、ロシアが隣国ウクライナ南部クリミア半島を強引に併合。さらに、ロシアに接するウクライナ東部のロシア系武装集団が、市庁などの公共施設を占拠したため、EU諸国、そしてアメリカも大反発し、経済制裁措置を発動したものの、なおウクライナ東部の戦闘が激化しているため、ロシア問題の専門家・名越健郎拓殖大学教授に「ウクライナ情勢と日露関係!」と題して、御解説をいただいた。

その要旨は、ソ連が崩壊し、十五の共和国ができた時、ウクライナはロシアに次ぐ第二の共和国で、当時、ドイツ銀行は最も有望な共和国であったが、その後、同国での政争が慢性

化したため、いまでは一人当たりGDPはロシアの四分の一に落ち込んでいる事情もある。

そのクリミア半島については、プーチンは、「ロシア固有の領土だ」と言っているが、それは一面事実だ。というのは、ソ連崩壊の際に、時のフルシチョフ大統領は、その母や妻もウクライナ人であったことから、クリミア半島をウクライナ共和国へ編入したからである。クリミア半島は日照時間が長く保養地として知られるが、また、ロシア四大艦隊の一つ「黒海艦隊」の基地があり、親口派のヤヌコビッチ・ウクライナ大統領が、大規模な反政府デモによって、ロシアに脱出したため、黒海が「NATOの海」になることを恐れての軍事介入と言えらる。

また、中国の脅威もある。中国はEUへの経済進出を望んでおり、いままではシベリア鉄道經由だったが、豊富な資金を使って、ヤヌコビッチ政権に接近して三〇億ドルを提供し、クリミア半島に海路、中国製品を輸出する大型港を建設。さらに鉄道網に資金を投じ、その港からヨーロッパに中国製品を提供する計画が進んでいたのを阻止する狙いもあった。こうして中口関係は決してよくないので、日本は北方領土返還交渉を積極的に進めるべし、と説かれた。

(清原記)

▽ 当「時代を刷新する会」は、「何事も人類・国民のためになることには、時代を先取りして積極的に取り組もう」との趣旨で、昭和五十六年、岸信介元総理によって設立されたシンクタンクです。晩年の岸元総理がそうであったように超党派・超派閥で、真に国を憂える有志により構成されています。第二代会長は、木村睦男元参議院議長。第三代が櫻内義雄元衆議院議長。第四代・塩川正二郎元財務大臣は、九十歳を機に辞任。現在は、江口一雄元衆議院議員が会長代行に就任しており、理事長は、平成十四年から半田晴久が就任しております。

毎月の月例会のほか、内部に、教育部会、安全保障部会、医療福祉部会など八つの部会と、環境技術委員会、新エネルギー委員会等の委員会があり、これまでに、政府へ一三七本に及ぶ要請書・意見書を提出するなど、活発な活動を展開しております。

▽ 事務局電話(03)3272-4320 専務理事兼事務局長・清原淳平、総務 重田、高津

◎ 同封のハガキまたはFAXにて、七月十一日(金)までに、着信をお願い申し上げます。

▼ 事務局FAX(03)3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

七月十五日(火) 正午～午後二時半

出・欠

衆議院第一議員会館地下一階第三会議室